



「運動会が近づいてきました・・・」

校長 飯田 雅人

今年の夏は、遠くに出かけることが難しかったので、近くの公園などで虫取りなどをして過ごした子どもも多かったのではないのでしょうか？そのせいか、秋になっても飼育ケースに入れた昆虫を大事そうに手に持って登下校をしている子どもが例年にも増して多かったように思います。

子どもたちに大人気のカブトムシですが、時々とても小さな体のカブトムシを見かけることがあります。この小さなカブトムシにどんなにたくさんえさを与えても、体が大きくなることはありません。カブトムシの体の大きさは、幼虫の時に食べたえさの量で決まるからです。幼虫であるうちにたくさん食べることが大切です。えさをたくさん食べた幼虫が大きく成長し、やがては大きなカブトムシになることができます。幼虫は成虫になるために存在します。ただし、立派な成虫になるためには立派な幼虫時代が必要なのです。

チョウなどのイモムシは、葉っぱを食べて大きくなります。むしゃむしゃと植物の葉っぱを食べるので、植物側からすれば大きな迷惑です。多くの植物が葉っぱの中に有毒な成分を作り出し、イモムシを追い払おうとするのですが、一時的な効果はあっても、長期的な対策にはなりません。有毒な成分に対してイモムシも毒が効かないような解毒の仕組みを発達させてしまうからです。では、どうすればいいのでしょうか？ある本には、次のように書かれていました。イノコヅチという植物は、イモムシが抵抗できないような方法で身を守っています。それは、葉っぱの中にイモムシの成長を早める成分を含むという戦略です。この葉っぱを食べたイモムシは、普通より早く脱皮を繰り返すようになります。そして普通の幼虫に比べて十分に葉っぱを食べることなく、逆にイノコヅチにとっては食べられることなく、早く大人のチョウになってしまいます。早く成虫になることはよいことのようにも思えます。しかし、幼虫であるイモムシにとっては、あくまでもたくさん食べることが仕事なのです。幼虫のうちにたくさん栄養をつけることが、立派なチョウになるために必要なのです。早く大人になってしまったイモムシは、カブトムシと同じように、小さな成虫にしかなれません。興味深いお話ですね。このお話から考えると、もしかしたら私たちも、知らず知らずのうちに、子どもたちに対して同じようなことをしてしまっていることがあるかもしれません。もし、大人びた「小さな大人」のような子どもたちが増えてしまったら大変なことです。子どもを育てるためには、目先の結果だけにこだわらず、子どもの時にしかできない「しっかりとした子ども時代」を過ごすことが大切なのではないかと思えます。

さて、新型コロナウイルスの関係で春に臨時休校が続いたことにより、例年ならば、5月に行われている運動会を、本校では10月17日（土）に行う予定です。いつもとは違い、徒競走・演技・リレーを中心とした種目で午前開催の形で行います。また、参観は、保護者の方のみとさせていただきます。詳しくは、後日プリントにてお知らせいたします。子どもたちが「しっかりとした子ども時代」を過ごすためにも、年に一度の運動会は大切な学校行事であると考えています。無事に安全に、そしてぜひ思い出に残るような運動会にしてあげたいと思い、教職員一同準備を進めています。保護者の皆様や地域の皆様には、感染拡大防止の観点から様々な面でご協力いただくことになるかと思いますが、何とぞご理解いただきますよう、よろしく願いいたします。